

**福智山断層帯地震
福智町内の被害想定**

- 死者 ▶ 20人
(建物倒壊による死者 ▶ 10人)
- 建物倒壊による重傷者 ▶ 20人
- 負傷者 ▶ 200人
- 揺れによる全壊棟 ▶ 200棟
- 揺れによる半壊棟 ▶ 800棟

「0点防災」を防ぐ

直 下型地震は、真下から突き上げるような激しい縦横の複合揺れが特徴。建物の構造と状況によって被害は変わります。そこで重要なのが、建物の耐震性です。地震の際は「まず机の下に」と言われますが、旧耐震の住宅は緊急地震速報の後、屋外への避難が最適な場合もあります。また、建物の損傷はその後の余震での倒壊を招きかねません。ただし、屋外に出る場合は、ブロック塀や落下物などの危険があるため、日頃からの周囲の危険確認が大切です。発災直後は行政機能も混乱するため、自ら命を守る意識が欠かせません。防災に100点はありませんが、「何も知らない、何も知らない」という0点は避けられます。日頃からの備えが、減災の命綱です。

高木 敏行さん
福智町防災アドバイザー
(株)かんがえる防災代表

激震から命を守る心得

「ドン!」と突き上げるような突然の揺れで局地的に激震をもたらす内陸・直下型地震。考える猶予のない「その時」の心得を確認します。



発災直後

**落ち着いて
安全確認**
家族や自宅の中の安全と
火災発生時の危険を確認



熊本地震で寸断された道路

屋外で発災

**混乱避け
冷静に対応**
公園などできるだけ広い
場所への避難が安全



熊本地震で押し潰された建物

屋内で発災

**落下物から
身を守る**
激しい揺れで凶器になる
家具や家電から離れる



熊本地震で落下した天井

ポイント

**命を守るを
最優先に**
緊急地震速報の猶予時間は
数秒〜数十秒の可能性も



熊本地震で倒れた門柱と塀

事前確認

**死因8割の
圧死を防ぐ**
内陸・直下型地震の直接
死因は建物倒壊が8割



熊本地震で倒壊した家屋

「阪神淡路大震災」や「熊本地震」の揺れで亡くなった人の8割が住宅の倒壊などによる圧死でした。「福智山断層帯地震」での町内被害想定では、建物倒壊による死者が10人、重傷者20人、建物の全壊は200棟、半壊は800棟におよびます。まずは建物倒壊を防げば、人的被害を大幅に減らすことができます。

**築45年超の木造
町内に約2千800棟**

建築耐震基準は昭和56年6月に改正され、阪神淡路大震災を機に平成12年6月に厳格化されました。町内に約2千800棟ある昭和56年5月以前の木造建物は耐震性のチェックを。県の耐震アドバイザー派遣診断では、利用者負担6千円(簡易診断3千円)で耐震性を確認できます。
岡生涯あんしん住宅
☎ 092-582-8061



火の始末は揺れが収まってから。出火していたら落ちついて消火します。ガラスの破片などがあるため、必ず履物をはいて行動を。余震に備え、避難できるよう戸を開けて出口を確保します。玄関先では瓦やガラスなどの落下、外では道路崩落の危険性があるため、状況を確認しながら慎重に移動しましょう。

避難通路

封鎖する物は置かない

物だけでなく揺れの歪みでドアが開かず屋内に閉じ込められることがあります。大声を出し続けると体力を消耗するため、硬い物で壁などをたたいて存在を知らせましょう。体力温存のためペースを配分し、そばで人の気配がしたら声を出して助けを求めます。日頃からドアや避難経路をふさぐ物は置かないようにしましょう。



外出先の街中では看板や割れたガラスの落下、ブロック塀の倒壊に注意し、丈夫なビルのそばならその中へ避難します。公園など、できるだけ広い場所への避難が安全。列車やバスの車内、階段では、重心を低くして手すりにしっかりとつかまりましょう。車は左に寄せ、揺れが収まるまで待機を。

外出先でも

危険から離れる意識を

揺れを感じたら外出先でも「身を守る」「つかまる」「危険から離れる」の3つを意識してください。エレベーターでは全ての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りるのが原則。屋外では近くに塀や電柱、自動販売機や大きな看板などがいないか確認を。職場や施設では安全な場所に待機することも検討してみてください。

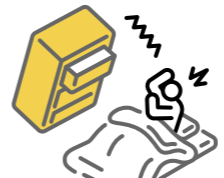


地震の際に大切なのが、落下物から身を守ること。家の耐震性が高ければ、その場で頭部や腹部を守りながら揺れが収まるのを待ちます。丈夫なテーブルがあれば、その下で低い姿勢をとります。震度によって物は凶器と化します。特に、居間や寝室、台所で物が倒れないような対策を取りましょう。

部屋を確認

家具固定と安全地帯

家の中の一部屋だけ、あるいは部屋の一角だけ、何も落ちてこない、物が倒れても当たらない安全地帯を確保しておきましょう。猶予時間があればそこに逃げます。大きくて重い家具や家電はしっかり固定を。寝室には背の高い家具を置かないようにしましょう。キッチンには危険なので、まずは離れて身の安全を守ります。



「福智山断層帯」のような内陸・直下型地震では「緊急地震速報」の猶予時間が数秒しかない可能性があります。地震に遭うと呆然としてしまい、適切な判断が難しくなります。その時、いち早く我に返り、自分自身と家族の命を守る行動に移せるよう家庭の状況に応じた「避難プラン」を立てておきましょう。

猶予時間の行動

建物の耐震で変わる

発災時に身を守る行動は、自分がどこにいるか、家にいる場合は耐震性によって違ってきます。耐震性が高ければ丈夫なテーブルの下へ。猶予時間があれば台所の火を消し、落下物の少ない場所へ。耐震性が低ければ倒壊を避けるため迷わず家の外へ。地震発生までの数秒から数十秒の間の行動が、命を左右します。

